

デーリー東北  
2023年(令和5年)12月25日(月曜日) (6)

ニュースの  
視点Q&A

社会生活や経済活動を支える大型インフラの橋が全国的に老朽化し、適切なメンテナンスによる長寿命化の重要性が増している。維持管理業務に従事する人材の育成が求められる中、八戸工業大は11月、構内に実在する橋を再現した「橋梁メンテナンス体験施設」を完成させた。実物を見ながら基本的な構造や部材、劣化状況などについて研究することが可能。大学の講義だけでなく、地域の技術者を対象とした学び直しでの活用も見込む。インフラに関わる地元企業は人材確保や技術の深化に期待する。

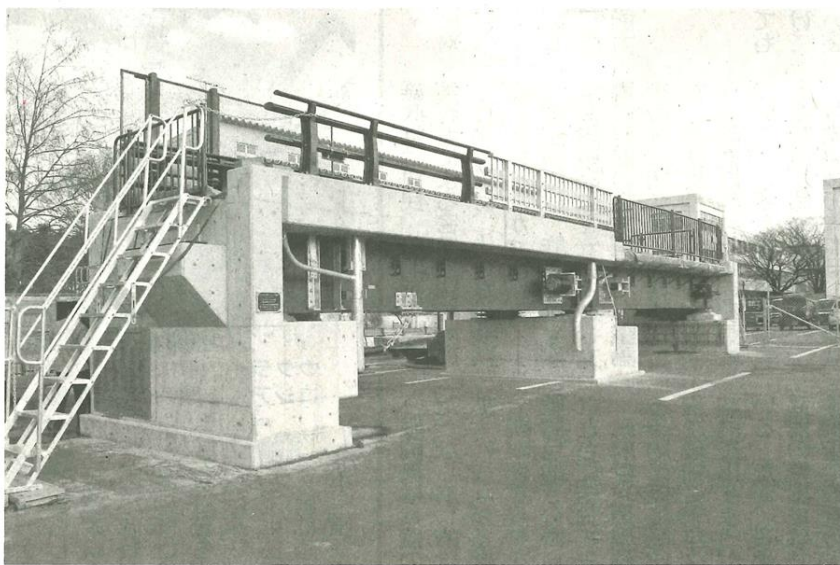
Q 八戸工業大が「橋梁メンテナンス体験施設」を整備したみたいだね。どんな役割があるの？

A 実在する橋を同様の工法で再現した施設で、大きさは全長16m、幅3.3m、高さ2.5m程度。学生が基本的な構造や部材、劣化状況などについて学ぶことができる。通常であれば見学が難しい橋の裏側や排水の仕組みを間近で見られるのも特徴の一つだ。

昭和期から使われてきたさまざまな仕様の鉄筋も採用しており、部材の変遷やそれぞれに対応した補修方法、経年劣化具合も研究可能という。従来は映像でしか知ることができなかったことについても、実物を見

八工大が整備「橋梁メンテナンス体験施設」

人材確保、技術力向上に期待



八戸工業大が整備した「橋梁メンテナンス体験施設」  
11日、八戸市

て学べる利点があるよ。

Q 橋の維持管理を担う人材が不足しているの？

A 日本では高度経済成長期からバブル期にかけて多くの橋が建設され、市民生活や経済活動を支えてきた。ただ、年月の経過と

もに老朽化が進行。架け替え工事には多額の事業費を要するため、適切なメンテナンスで長寿命化させる手だてが重要になっている。近年は激甚化する災害にも耐え得るような維持管理の方法も研究されているよ。

一方で、メンテナンス業務を担う人材は全国的に不足しているのが現状だ。特に地方は人口減少や少子高齢化を背景に、土木・建設系の人材確保は厳しさを増す。専門的な知識や技術を持つ担い手の育成が大きな課題となっているんだ。

Q 新たな施設が課題解決の一助になればいいね。

A この施設は、地域の技術者が学び直しリカレント教育にも活用される。地元企業は人材確保や技術力向上につながると期待しているよ。八戸市では現在、沼館地区と八太郎・河原木地区を結ぶ「新大橋」の架け替え工事も進行中だ。今後、橋の維持管理はますます重要になるだろうね。